

脳の病気って怖い



脳神経外科 大野博康

歳をとると病気にかかる可能性も高くなってしまいます。人間の体には色々な病気がありますが、最も自分がかかりたくない病気の一つが脳の病気だと思います。では何で脳の病気が怖いのでしょうか？

脳は神経細胞の塊です。しかし、残念ながら神経細胞は一度壊れてしまうと二度と元に戻りません。人間の体のほとんどの細胞には再生能力があります。例えば血液細胞は数日で壊れてしましますが、次々と新しい血液細胞が作られるので普通は貧血で倒れてしまうことはありません。白血病の治療の時などには白血球を無くしてしまってもしばらくすれば元に戻ります。肝臓なども半分取り除いても時間が経つと回復します。実は神経細胞にも神経幹細胞と呼ばれる神経細胞の元となる細胞が脳の中にわずかに存在して、脳に傷がついてしまうとその細胞が活性化することも判っています。ただ、全然数が足りないのです。子供の頃は神経細胞が増えますが、大人になると減る一方になります。歳をとると記憶力が低下するのはある意味仕方がないことなのです

機械だって何十年も酷使されると壊れます。我々の神経細胞は20歳前後の頃からずっと酷使され続けてきているのです。しかし、機械と違って分解してキレイにしたり、悪いところだけ取り替えたりすることが出来ません。調子が悪くてもそのまま使い続けるしか無いのです。アルツハイマー型認知症と言われているものも、細胞の中に上手く排出出来なかった老廃物が徐々に溜まってしまい、ゴミだらけになってしまうと細胞が上手く働かなく

なることが原因とされています。

出来る限り今ある神経細胞に調子よく働いてもらうしかありません。残念ながら将来いつどのように調子が悪くなるかは現在の医学では予想出来ません。調子が悪くなった時にはできる限り早く、正確に治療することが大事になります。

調子が悪い時には我慢しないで早めに受診することが必要です。神経細胞の障害で最も怖いのは手足の麻痺です。「何となく調子が悪い」という早い段階で原因を見つけて治療するのが理想的です。悪くなってしまった後でもそれ以上の病気の進行を食い止めることが次の目標になります。



頭が痛い、手足が重い、口の周りがしびれた感じがする、視界の一部がぼんやりするなど、気になる症状がありましたら、脳神経外科を受診してみてください。軽いうちに病気を見つけることが最大の治療になります。よろしくお祈いします。